令和6年第1回 吉田町教育委員会

- 1 開催期日 令和6年1月29日(月)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 4時02分
- 2 場 所 吉田町役場 5階会議室2
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
中村 成宏
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳
学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 中山 孝宏
学校教育課長補佐 山村 加奈子 主席指導主事 水嶋 浩之
指 導 主 事 平井 奉子 学校教育課統括 川本 貴浩
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
- (1) 報告事項 1月の教育委員会の行事について
- (2) 町内教職員の状況 特になし
- (3) その他 大谷翔平選手のグローブを各小学校に贈呈 ほか
- 3 会議録署名委員の指名 北澤委員
- 4 議 事
- (1) 報告事項
- ア 生徒指導について 【非公開】 資料No.2
- イ 令和5年度就学援助費の認定について 【非公開】 資料No.2
- ウ 児童生徒の区域外就学について 【非公開】 資料No.2

エ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について 資料No.3

(委員からの意見・質疑)

- ・特になし

オ 吉田町教育大綱（案）及び吉田町教育元気物語TCPトリビンスプラン（案）

のパブリックコメント結果について 資料No.4※資料非公開

(委員からの意見・質疑)

- ・指標と目標の違いは何か。 ⇒ 指標は物差しのなもので、目標はここを達成したいという到達目標と捉える。いろいろな政策を打っていったときに、それがどの程度効果を生んでいるかということ測る物差しとして指標がある。
- ・質問している人は、目標としてとっている感じがする。指標と目標の定義を、事務局側としても押さえておかないといけない。
- ・良い質問をしてきていて、それに誠実に答えていると思う。
- ・この教育大綱の中に、基本方針が示されているが、この基本方針の中に紐づけられる具体的な施策が示されるのか。 ⇒ 大綱に掲げてある基本方針の項目に具体的な施策が示せるかということ、なかなか難しいが、TCPトリビンスプランの中でいえる部分もあると考える。
- ・総合計画の中では、関連計画としてTCPトリビンスプランが書かれていると思うが、大綱自体は総合計画のような冊子にはならないのか。 ⇒ 大綱は冊子を作成する。

(2) 協議事項

ア 教育委員会視察について（利根町教育委員会、土浦市教育委員会）

(委員からの意見等)

- ・利根町と土浦市の2つを比較したときに、利根町の方が小さくて、いわゆる休日の部活動を立ち上げているというようなイメージ。それに対して、土浦市の方は兼職兼業の教員を生かして、現行に近いもので実施しているイメージで受け取った。地域移行を考えたときには、利根町の方がより地域に根差していくというイメージだった。
- ・吉田町では、まずはどちらがリアルかと考えないと、方向性を見失うのではないかと。土浦市的方法でいいのか、利根町ふうに行くのか。利根町が私のイメージに近い。
- ・利根町の方が、事務局が上手く回っているのであれば、イメージがつくと思った。担当が持っている責任、業務内容が多い。土浦市は、部活動ということ強く出していた。部活動が盛んで、部活動というものに魅力を感じている保護者なり、地域の方、生徒がいるということだったので、そういう方式なのかと感じた。自分の考えは、部活動は学校教育から切り離れた子供たちのスポーツ推進になると思っているので、部活動から切り離れた考え方を私達も持ってい

ないといけないと感じた。土浦市は大きな街なので、吉田町に置き換えてというと、人材がいない。そもそも教育委員会や町としても人が足りない中で指導者となると、数が違う。あと、吉田町も野球なりサッカーなりが根強く、吉中の野球部としての誇りがあるというのであれば、地域に移行してOBなどがあると思う。以前、全国優勝した歴史もあるので、その時のOBが夜来てやるということもできなくはないと思った。それこそ、逆に地域の人が入りやすくなるのでは。部活動となってしまうと、学校教育となってしまうと、地域の人にもまだ壁があり、参加しづらいと思い、できれば、地域クラブの方が参加しやすいと私のイメージには残った。

- ・利根町の取組は、すごく評価できる。ただ、その仕組みづくりから、実態として、鍵の管理等や出欠、開催の有無など、1人の指導主事が担当し、その人が全部をやっているということで、その人の努力で、今、動き始めている状況に見えた。部活動だと、勝利至上主義にするのか、その時間でいろいろな人生経験を積むのかとか、いろいろ考え方があると思うが、利根町としては、地域でいろいろな協力を得ながら、子供たちの居場所づくりでスポーツや文化への体験の入口、楽しむ、楽しみを知ってもらおうとか、良さを知ってもらおう場にしたということだった。それはいいなと思った。土浦市は、私の推測だと、部活動に対して歴史的な思い入れが強い雰囲気があるので、きっとこの部活動をなくす方向には行きたくないというのが、この資料には出ていると感じる。ただ、私の意見として、かつての部活動の良さを追うのではなくて、今必要な仕組みと今後必要であろう仕組みを新しくゼロから協議会を立ち上げてつくるのが一番理想的だと思う。それは時間かかっても吉田としてそういう子供たちの居場所が必要だと判断するならば、その必要な居場所を町として予算をかけてつくと、そこには学校の先生や地域ボランティア、他の指導者に入ってもらおうとか組織として運営できるような形にしないと、結局は成り立たないような気がした。

- ・今、土日だけ移行することを町は打ち出しているが、平日も移行するのか。土日だけ移行するということは、平日の放課後は、先生たちが指導しなくてはいけないということで、土日の指導者と平日の指導者が変わるから上手くいかないというよりも、先生の働く時間として、そういう指導ができるのかということ。教師の仕事として、それはもうできなくなるだろうというのが目に見えているので、きっと部活動はなくなるという方向性のもとに新しく考える必要がある。

- ・部活動を残す場合、指導者がいればいいと考えたら、指導者に今の部活動、大体週3日2時間と土日どちらか1日3時間として、指導者は研修を、教育的なコンプライアンスも含めた研修は、教育委員会で受けてもらうにしても、それに見合うような報酬は時給で支払う。週15時間ぐらいで募集した場合、やりたいと手を挙げる人はいると思う。

- ・施設は、学校を開放する。送り迎えなどは保護者会が中心の組織で行う。
- ・部活動をはっきりやめてしまう。中学生の居場所が何か必要だとするならば、今の放課後児童クラブとか、ソフトランニング教室のような地域でやっている社会教育的な生涯学習的なものを、中学生向けに充実させたものをつくる。その場合、ほぼ公費になると思うので、なかなか多様化した指導者を配置することは難しいかと思う。少し方向性も含めて利根町の「すぽかるとね」みたいなものをつくる。今の活動とは全く違う形になる。
- ・先生の労働時間を考えたら兼職兼業は難しい。兼職兼業が可能なら、週40時間を超えても別に問題ないというわけではない。週40時間があるならば、部活動に先生が携わることは実際的に合わない。別な人がやるという線は考えられると思う。
- ・将来的なことを考えると、先生が部活動をやるのがなくなることが前提として、タイプとしては地域クラブ活動、しかもその費用面を考えればある程度数も絞った形で、数を絞れば、指導者の人数もある程度確保しやすいというような利点もあるというところでやっていくのが現実的ではないか。
- ・移行期間は、休日は令和8年までに完全移行、地域移行という方針なのか。⇒ 国の方は、7年度までに休日の移行をとしており、吉田町は7年度にそれを実施するという事はなかなか厳しいというところで、8年度というのが年度当初だとまだ3年生チームが中体連で動いている状態なので、例えば、8年度の中体連が終わった後あたりからそういう体制を設けるとか、その辺りはまた今後少し詰めていかなくてはいけない。
- ・平日に関しては、特に教員が部活動に関して続けていくのか。⇒ 土浦も利根も両方話していたのは、平日の昼を活動時間と考えたときに、指導者の確保がなかなか難しくなってくる。仕事を考えれば、やはり休日が現実的なのかと。休日がなくなるだけで、教員の心理的な負担はずいぶん違うと思う。
- ・町が報酬としていくら出せるか、いくら出し続けられるのか。この行為に対して、価値があるものとして認めて、指導者1人月10万円を10人までだったら町はずっと出し続けますので、仕組みづくりは頑張ってくれというところではないかという気がする。足りない分は、民間企業の協力を得るのか、保護者から会費を得るのかというところの。部活動はなくなる前提にしないと、いけない。
- ・利根町の年会費や保険料はいくらだったか。⇒ 年会費、地域クラブの組織に、協会の方に所属することで、まず年として2,000円払い、活動費として毎月2,000円。
- ・地域クラブに対して、町がお金を出し続けることが必要だと判断するか、必要じゃないと判断するかは、やはり教育委員会である程度決めること。今の時代の中学生が充実した時間を自己マネジメントのもとに生きていけるという判断をするなら部活動はやめて、自分たちで時間をつくって、自分たちでちゃんと

学ぶなり、遊ぶなり、友達と何かそれなりにやれたらなど判断できるような中学生になってもらったらいいという気がする。町としてできる範囲での支援をそこでしていくというのが、理科館をつくったり、図書館をつくったりとか支援しているわけなので、そういうところの使用の仕方を、少しイベント的に考えていくぐらいの支援ならできるのではないかと思う。⇒ いろいろな意見がある中で、何かを変えようと思うときというのは、必ず両方の意見が出てくると思うので、最終的には今回のこの部活動についても、行政上の方である程度の方向性を示して説明するしかないと思う。それを考えていったときに、指導者確保であったり、公費負担をどうするかであったりの問題をどのように解決していくか。スポーツ少年団のような運営でいくと、公費としても補助金を出してはいると思うが、活動の中に必要なものについては、受益者負担でそれぞれの部が集めているというところもあると思うので、その両者がやはり一緒になっていかないと、全額をどちらかでというのは、かなり大変になるかと。その中でも、例えば、球技をやれば、当然ボールなどいわゆる消耗品が必要になってくるが、そうしたものは、どっちが用意するのだとか。具体的に細かなところでいろいろな課題が起きてくる可能性があると思う。また、例えば、総合型のスポーツクラブであるとか、一つの種目に限定をしない、楽しみながら体を動かして、スポーツを楽しみながら、いろいろな人と関わっていったということも、考えられないわけではないので、そうしたときに、その指導者というのをどうするかとか、場合によっては、行政の中にそういうような職員を置いてその職員でやるとか、そんなことも考えられないわけではない。吉田町なりの在り方というのはどうするか。それと、今既存であるような、体育協会であったり文化協会であったりというところの活動の中に、時間帯が夜になってしまうケースもあるとは思うが、そうしたところに参加するという手もあると思うので、どの程度その選択肢を提供できるかという、そんなことも考えなくてはいけない。

・今回、利根町と土浦市と対照的な二つの取組をしている、規模は違うが、両方ともすごく参考になるアクションをしている良い視察ができたと思う。

5 その他

- ・教育委員報告（全教職員研修について）
- ・「これからの学校」フォーラムについて
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉会